民報 あばしり
NO.1225
2019.7.7
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL 四二－四四五八
FAX 四二－四四五七

第2回定例会　松浦議員の質問

一般質問2日目、26日の日本共産党の松浦議員が質問に立ちました。

国民健康保険について

松浦…昨年の議会で国保料の資産割を3年後までに廃止とした。平成31年度国保料の料率を医療分の資産割を10・80％、後期高齢支援分2％、介護分2・1％と、それぞれ引下げた。その影響額と、その分の対応は？

市…影響額は、約1700万円の減額と試算し、減額分は賦課限度額の3万円の引き上げが350世帯あるので、約1000万円を見込み、他に所得割の課税標準額が、前年より2％増えると見込んでいる。

国の財政負担の大幅引き上げを！

松浦…国保料が高い原因の一つは、国の負担率が下がっていること。全国知事会、全国市長会、全国町村会が「公費投入で構造問題を解決すべき」と言っていることへの見解は？

市…国保加入者の年齢構成は高い。協会けんぽと比べ、収入が年金や非正規雇用のため低所得階層が多いなど、構造的課題があり財政基盤を強化する上で、国の財政支援は不可欠なものと考える。

子どもへの均等割はやめて！

松浦…国保料を引き上げているもう一つの要因は、均等割である。全く収入のない子どもにも一人当たり27,500円。4人家族だと均等割だけで11万円の加算となる。見直しを検討すべきだ。

市…子どもの均等割額の軽減は、国が制度として整備すべきものであり、全国市長会でも「子育て世帯の負担軽減を図るため、子どもに係る均等割保険料を軽減する支援制度を創設すること」と要望している。

松浦…95年に国保法の改定があり、保険料の応能割（所得割など能力に応じた）と応益割（均等割、平等割など）の比率は「70対30」だったのが、「50対50」となった。都道府県化により廃止になったが、網走市の「応能割と応益割」の状況は？

市…医療分については、応能分の所得割が51％、資産割が5％、応益分の均等割が30％、平等割が14％で、応能・応益では56対44となっている。

ストップ！戦争法　網走の会
７月の行動予定について

７月９日（火）リーフ配布
　7：40 集合　桂陽高校前

７月10日（水）　リーフ配布
　7：40 集合　南ヶ丘高校前

７月27日（土）　定例宣伝
　11：00　駒場北５丁目歩道
　11：25　エコーセンター前

松浦さとし奮戦メモ！

参院選が4日に公示になりました。公職選挙法が度々改定されて、最近では自由に選挙活動ができなくなりました。例えば宣伝カーでのマイクを通じての通常の政治活動は禁止され、ビラも名前や写真入りは禁止など、有権者に党や候補者の政策を伝えたくても自由にできません。また、毎週月曜日と土曜日の街頭宣伝を行っていますが、参院選挙期間中は、党名を書いていないポスターとメガホンを使っての生声で政策を訴えることになります。それでも、めげずに頑張って声を出していますが、すぐに喉が痛くなるし、力を込めて声を出すため体力も消耗します。

日本共産党は、戦前非合法だったので、全てが自由にできませんでした。戦前から見ると自由の規模こそ違いますが、40数年前の公職選挙法に比べると自由が大きく奪われて、有権者に政策が届けることが大変でストレスもかかります。「選挙は、もっと自由にさせてほしい」と、声を大にして言いたいです。

村ちゃんが駆ける

先日、カヤックと自転車とマラソンのレース「シートゥーサミット」があった。参加はできなかったが、30年ほど前にカヌーで網走川を下るレースに参加したことがある。水の上は時間を忘れ、リフレッシュができ、健康にも良い。一般質問の直前だったので、残念ながら参加できなかったが、次回は参加したい。

100年安心の年金制度はどうすればできるのか。25年も払った年金が、老後の生活を支えきれないなんて、まるで詐欺ではないか。安倍自公政権のもとで正規雇用が減り非正規雇用が何百万人も増え、年金収入が減った。政府は今まで何をしてきたのか腹立たしい。政策の見直しが必要だ。中小企業を応援し、賃上げや正社員化を図り年金収入を増やすようにすればいいのだ。出生率が悪いなら子育て支援をすればいい。消費が増え景気が良くなり、雇用も増えて、好循環ができる。トランプ大統領に言われるままF35戦闘機の爆買いなどもってのほかだ。

流氷

4月の市議選挙が終了してホッとしていたが、次の選挙がもう始まってしまった。

「今年は選挙の年です」と市民の皆さんに訴えてきたが、国政選挙は候補が身近にいないために、私の周辺も未だにピリッとしない。しかし、市議選で共産党の議員が2人になって、網走の市議会は変えられても、当たり前のことであるが、国政まで変えることは出来ない。国の政治は、共産党の議員をいかに多く国会に送り出すことができるかで私達の暮らしに希望が見えてくると私は思っている。4月の市議選の告示日に前衆議院議員は「私が希望して、村椿候補の第1声に応援をしたくて駆け付けてきました」と言って応援演説をしてくれた。その気持ちに私達は今、応えなくてはならないと思う。『今、くらしに希望を！ごいっしょに政治を変えましょう。ぜひ、2人揃って国政に送ってください！』と。私は決して電話で訴えるのは好きなわけではない。しかし、今、私に出来る事をしないと後悔しても手遅れである。毎日、自分にエールをかけて頑張るしかない！

なおこ